

令和6年度 小林市立須木中学校 学校関係者評価書

4 期待以上 3 ほぼ期待通り 2 やや期待を下回る 1 改善を要

学校経営ビジョン

- ・「知育」「德育」「体育」「食育」の調和のとれた生徒の成長を促すため、生徒一人一人にしっかりと目的意識(キャリア教育の視点)をもたせ、生涯にわたって「自ら社会の一員として幸せに生き抜く力」を身に付けさせるため、全職員協働による「チーム学校」としての組織的な取組を実践する。また、将来の夢の実現に向け、生徒が挑戦と協同の中から自分の強みを見つけ、伸ばすことを大切にする教育活動を推進する。
- ・学校行事、生徒会活動、部活動等においては、生徒自らが主体的に取り組むことを通して、達成感・成就感・連帯感を味わわせ、生徒に「やればできる」という自信と誇りと力を育む教育を実践する。
- ・須木小学校との「小中一貫教育」を重点施策の一つとして位置付け、系統性・一貫性のある須木ならではの特色ある教育を推進するとともに、地域とのかかわりを大切にした学校づくりを推進する。

項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	結果の考察・分析及び改善	自己評価	関係者評価	学校関係者のコメント
知育	○ 基礎・基本の確実な定着と、自ら学ぼうとする態度の育成 1 基礎・基本の定着 ・タブレットPC活用の充実 ・朝学習の時間の活用・工夫 ・学び方を身に付けさせる	○タブレットPCの活用により、動画やリアルタイムで世界の状況を視聴することが可能となり、生徒自身の活動や思考の充実に役立つことができた。 ○朝学習の研究により、子ども達自身が自分に合った学び方を考え、実践することができている。また、AIドリルを試験的に導入し、朝学習に効果的に取り入れた。次年度以降、学習効果を引き出すためのAIのさらなる活用手段についても検討していきたい。	3.4	4.0	・タブレットPCの活用が日常的に定着し、いろいろな場面での活用が期待できると思う。 ・自分に合った学び方を実践できている事は素晴らしいと思う。自分が「わかる」「できる」と感じ、自信を持つことで伸びていくと思う。 ・「ひなたの学び」を意識した授業においては何回も考え抜いて作りだしたもので授業に取り組んでいるので素晴らしいです。 ・英語検定達成率100%に向けての更なる努力に期待します。
	2 授業改善・各種検定への挑戦 ・一人一研究授業の実施による授業力向上 ・「ひなたの学び」の実践 ・英検への挑戦→80%以上が受検し、5級以上所得	○研究テーマである「ひなたの学び」を意識した授業を展開することで生徒が自ら率先して活動する機会を設けることができた。 ○今年度は14名の生徒が英検を受検し、達成率が64%であった。 ○英検IBAの結果を見ると、90%が英検5級以上の結果であった。 ○生徒ごとの学習に対する意識や取り組みの姿勢に大きく差が見られるため、家庭とも連携しながら改善に努めたい。	3.0	4.0	・ゲストティーチャーの活用は視野を広げる意味でも大切なことだと思うので機会を増やして継続してほしいと思います。 ・職場体験を通じて自分の進む道などを学べ、働くことの大切さなどもわかったのではないかと思う。 ・タブレットと大型モニターの活用はすっかり定着しており、教師も生徒も慣れている。 ・英会話をゲーム感覚で習得するソフトなどぜひ活用し得楽しく身につけてほしい。 ・次年度、各地にあった郷土芸能の調査や体験を授業で行ってはどうか。 ・環境の変化に順次に適応し、タブレットPC等をうまく活用できていることはとても良いことだと思います。
	3 キャリア教育の充実 ・体験活動・校外活動の実施 ・こすもす科の授業の充実	○こすもす科にてゲストティーチャーを活用し、広い視野を持って知識や見識を広げることができた。 ○各行事に向け、生徒の意欲や活動を補助しながら、行事等を成功させることができた。 ○職場体験や農業体験などの体験的な行事を多く取り入れることで勤労観の醸成に役立つことができた。	3.4	4.0	・英会話をゲーム感覚で習得するソフトなどぜひ活用し得楽しく身につけてほしい。 ・次年度、各地にあった郷土芸能の調査や体験を授業で行ってはどうか。 ・環境の変化に順次に適応し、タブレットPC等をうまく活用できていることはとても良いことだと思います。
德育	○ 人権感覚の向上と生命尊重意識の育成 1 いじめや不登校の予防と早期発見、素早い初期対応 ・きめ細やかな教育相談の実施 ・学校、保護者、関係機関との連携	○月一回のいじめアンケート・年2回(5月・2月)の教育相談を実施している。実施後、気になる生徒については共通理解を図り、全員で見守るようにしている。 ○スクールソーシャルワーカーと連携しての生徒・家庭の見守りや心身の不安定な生徒にはスクールカウンセラーによるカウンセリングを実施した。今後も連携を取りながら生徒の心の安定を図っていきたい。	3.2	4.0	・少人数校なので、それぞれコミュニケーションも取れ、いじめは見受けられないと思う。今後も家庭との連携を図り、「人を思いやることを忘れない人」に育ってくれるように指導を望みます。 ・生徒会が主体となる企画運営は素晴らしいと思います。 ・今後も期待します。 ・命の大切さ、人権意識の向上を図った道徳の実施は非常に大事だと思います。
	2 心を育てる実践 ・生徒会活動の活性化 ・道徳教育、人権教育の充実 ・ボランティア活動の充実	○各学校行事では、生徒会が主体となる行事の企画運営を推進した。 ○年間計画にそった道徳の実施、いじめを許さない態度の育成・いのちの教育週間にあわせての教員の説話等を行っている。また人権啓発資料(ファミリーふれあい)を使用しての授業を行い、人権意識の向上を図った。 ○朝の清掃活動やよはぜ祭りでの募金活動、須木花火大会での準備・片付けやステージでのダンス披露など、地域と関りをもった活動を行った。今後も持続的な活動となるようにしたい。	3.3	4.0	・ボランティア活動にに関しては自分から進んでやる気持ちで参加している。今後も活動してもらいたい。 ・家庭との連携ブレイのなせる技です。「須木はないだろ」と油断せずに! ・家庭での手伝い、役割を自ら見つけるとしましたのです。 ・須木の子どもたちはとても素直で大きなもめ事もなく、とても良いことだと思います。これも先生方や地元の皆さんとの関わりからくることではないでしょうか。
体育	○ 基礎体力・運動能力の向上と健康生活習慣の定着 1 健康増進・基礎体力の向上 ・虫歯治療率100% ・基礎体力及び運動能力の向上	○虫歯治療が終わっていない生徒が、1名いる。未治療の生徒については継続して治療を勧める。フッ化物洗口を週1回程度行っている。 ○心電図検査・心臓病調査で異常が見られた生徒たちは全員精密検査を受診している。 ○基礎体力は向上が見られた。3月に体力テストを実施予定。A判定の生徒が増え、E判定の生徒が減った。	3.2	3.5	・虫歯治療100%を目指し、治療後のメンテナンスも続けてほしいです。 ・基礎体力の向上が見られたのは素晴らしいことだと思う。 ・情報モラルの時代なので知識の向上を望みます。 ・感染症対策は家庭との連携を図ってしっかり対策されていると思います。 ・地震などの発生が多いので、訓練を通じて自分の身を守る事を身につけてほしいです。
	2 保健指導の充実 ・情報モラル教育の推進 ・感染症対策の徹底	○情報モラル教育は、各学年のこすもす科で実施している。著作権についての学習も行った。内容に応じて小学校との連携も図っていきたい。 ○感染症対策は、各教室に消毒液や空気清浄機を設置して使用するように指導している。また、委員会活動で生徒たちが呼びかけ等を行って、手洗い・うがい・換気を実施し、教員も確認している。 ○家庭内のメディアコントロールに課題があるため、保護者を対象にICTサポーターによる情報モラル講座を行い、啓発を図った。	2.9	3.0	・不審者対応の訓練も検討あります。 ・薬物乱用防止教室は今後も専門的見地からの指導を望みます。 ・自分の力で登校を目指してほしい。(危険のない範囲で) ・メディアコントロールは須木中生の目安となる時間を決めてもいいのでは?(生徒会で) ・いろいろな災害を自ら想定して対応する力を身につけてほしい。
	3 実践的な安全・防災教育の実践 ・避難訓練の実施 ・交通安全教室、薬物乱用防止教室の実施	・避難訓練は、地震・火災の訓練を消防署と連携して実施している。その中で避難の仕方が改善された。不審者対応の訓練も今後、実施方法について検討していきたい。 ・交通安全教室は、警察署と連携して実施している。交通量が少ない地域ではあるが、自転車の整備や乗り方が不得手な生徒もいるために、とても有益なものになっている。薬物乱用防止教室は薬剤師を講師に招き、専門的見地から指導していただいた。	3.1	4.0	・体力が上がってきてることはとても良いことだと思います。病気になる子どもも減るのではないか。 ・学校の老朽化は心配ですね。市と連携してしっかり対応してほしいところです。何かあってからでは遅い。
食育	○ 食育の推進と望ましい食習慣の形成 1 食育の推進 ・弁当日の自己作成率100% ・給食の残さいゼロ	○弁当の日を2回実施している。生徒たちは段階に応じ、自分たちのできる範囲で作っている。また、弁当の日写真展にも積極的に応募しており、表彰も受けるなど、事後の取組も充実していた。 ○給食では配膳にも配慮し、給食の残菜はほぼ見られない。家庭科の授業や保健指導を通して食への関心も高まってきた。	3.1	4.0	・弁当の日の実施は食への感謝の気持ちが向上すると思うので継続してほしい。 ・今の食材物価高の折、残さいゼロは最高だと思います。食材や作ってくださる方々へ感謝して食べる気持ちが大事だと思います。
	2 望ましい食習慣の形成 ・朝食摂取率100% ・食事マナーの徹底	○朝食摂取率は健康観察では全員摂取していると答えていた。引き続き朝食の大切さを指導していきたい。 ○食事マナーについては良好である。ただし、好き嫌いが多い生徒もいるため、食育の意識を向上できるよう外部講師の活用等も検討したい。	3.0	3.0	・アレルギーを持つ生徒に代替食を配膳するなど素晴らしい配慮がなされていると思う。 ・自分で作った弁当を絵に描いた図画も見てみたい。 ・好き嫌いは味覚の発達も関係があるので無理強いは禁物。
	3 食物アレルギーへの対応 ・全職員で共通理解と対応体制の確立 ・事故0件をめざす	○養護教諭を中心に食物アレルギーに関する共通理解を行い、食物アレルギー反応発生時のエビペンの使用方法もオンデマンドで研修を行った。 ○アレルギーを持つ生徒を把握し、給食や調理実習では事故の無いよう慎重に取り組んでいる。給食で代替食がある際は、教員が確認して生徒に配膳している。今後も緊張感を持って対処していきたい。	3.3	4.0	・大変だが、引き続き事故がないよう調整を望む。 ・小林市内の他校区では朝食摂取率がとても低いと地元の方から聞くことがありました。須木校区ではいつも高いですね。当たり前だと思えるくらいすごい。引き続きご指導よろしくお願いします。

次年度の方向性についての校長所見	知育 :ICTの活用を含め、自分に合った学び方を身に付けさせる実践を行うことで自己肯定感の向上を図る。「ひなたの学び」をより深化させるため、生徒が考えぬく授業づくりを継続する。 德育 :「人を思いやることができる心」の育成を目指し、生徒主体の活動をさらに推進する。また、家庭との連携や地域の人との交流の機会を充実させる。 体育 :基礎体力向上の取り組みを強化するとともに、虫歯治療100%を目指す。情報モラル・メディアコントロールや情報モラル教育の充実を図る。 食育 :食への感謝と関心を深める取り組みの継続・発展とアレルギー対応の充実を図る。
------------------	---